

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 72

学校名・団体名	尾張教育研究会丹葉支部特別支援教育研究部会
HPアドレス	なし
コース	教育研究
活動・研究 テーマ	経験の差を解消する特別支援教育担当者の研修
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>経験年数の差を少しでも解消し、特別支援教育担当者が共通の視点をもって子どもや保護者に対応できる指導力を身につけ、地区の特別支援教育の質の向上を目指す。</p> <p>（今年度は応用行動分析について学習する機会をつくる。応用行動分析は、発達障害のある子どもの問題行動を改善する効果的な方法である。日々、経験値に頼って子どもの行動を見ることが多い我々にとって、事実を客観的に分析するツールとして有効であると考える。）</p>	

<活動・研究報告>

1 活動計画

8月 7日 夏季研修会

(目的) 研究テーマを踏まえ、講師を招聘し講演をいただく。また、各自の実践などの情報を交換し、日頃の疑問や課題を改善する機会とする。

(講演) 「保護者と考える合理的配慮」 講師 山田 充 氏 (広島県廿日市市教育委員会)

10月17日 研究集会

(目的) 夏季研修会を経て、研究推進部会の代表者(小学校1、中学校1)の実践発表を行う。併せて、地区の課題に応じた講師を招聘し、学習会を行う。

(内容) ① 実践発表(小学校・中学校)

② 応用行動分析の学習会

2月21日 実践レポートの配付(各学校の実践をまとめた冊子を全会員及び全学校に配付する。)

(目的) 小学校、中学校、通級指導教室の3部門の実践を集約し、来年度以降の実践の参考とする。

2 夏季研修会について(開催日 8月7日)

講演「保護者と考える合理的配慮」 講師 山田 充 氏 (広島県廿日市市教育委員会)

・ 合理的配慮と基礎的環境整備について、基本的な内容から子どもの実態に応じた具体的な指導事例や保護者との連携において大切にしたいことなどをご指導いただき、会員の力量向上を図ることができた。



3 研究集会について(開催日 10月17日)

(1) 実践発表(小学校・中学校)

- ・ 小学校部会では、「集団での活動を通して、子どもたちの関わる力を高めるために」というサブテーマで、学年も個性も異なる子どもたちが所属している特別支援学級で、関わりを生む活動を設定することにより、人と関わる楽しさに気づき、みんなと活動することを楽しむことができる子どもたちを育てる実践が報告された。
- ・ 中学校部会では、「チャンツ、ゲームを中心とした特別支援学級の英語の授業展開」というサブテーマで、特別支援学級の英語の学習において、チャンツやゲームを中心に授業を構成することが、子どもたちが英語を口にする機会を増やし、反復練習を楽しみながら学習を進めることに効果的であるという実践が報告された。

(2) 講演

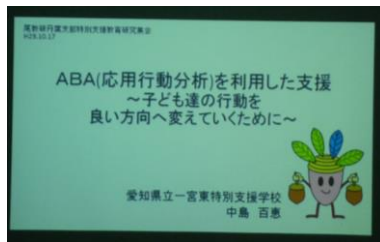
「ABA(応用行動分析)を利用した支援～子ども達の行動を良い方向へ変えていくために～」

講師 中島 百恵 教諭(愛知県立一宮東特別支援学校)

- ・ 子どもたちが起こす行動の意味を読み取り、より良い行動の定着を目指すためのABA(応用行動分析)の基本的な内容をご指導いただいた。

(3) 参考書籍の配布

講演の内容を振り返り、各学校で応用行動分析を活用するための参考資料として、『発達障害のある子のABAケーススタディ アセスメントからアプローチへつなぐコツ42』(中央法規)を、特別支援学級設置校へ配付した。



4 成果と課題

夏季研修会では、会員が一同に介して、経験豊かな講師の講演を聞くことで、「合理的配慮」や「基礎的環境整備」といった、日常的によく使う言葉の意味や具体的な指導について、改めて学ぶ機会となり、共通認識をもって今後の支援や指導ができるきっかけとなった。

会員からは、「これまで曖昧なままで過ごしてきたが、今日の講演を聞いて、特別支援教育の考え方について知ることができた。」「講演の中で出てきた、『俺ルール』のある子どもへの指導を試してみたい。」という声があがった。

研究集会では、「応用行動分析の考え方は、個に応じた指導の仕方考えるために参考となる内容でよかった。」「ABCフレームで行動を見ることが支援の始まりとなることと、支援の方向性のポイントをしっかり押さえることの必要性を感じた。」と、日頃の実践を振り返る視点を獲得することができた感想が述べられた。また、配付した参考書籍は、各学校で紹介され、特別支援学級の指導に活用するだけでなく、子どもの支援に困った通常の学級の担任の相談の際に、ABAの考え方を紹介し、書籍を活用しながら指導に当たったケースが報告されている。

特別支援教育担当者は、各学校の特別支援教育の中核を担う役割がある。担当者個々の力量向上が、地区の特別支援教育の質の向上につながるため、今後も継続して、会員全員を対象とした研修を計画し、その成果を各学校に還元できるようにしていくことが重要だと考える。